

本校地域創造コースビジネス系と由利本荘市雇用創造協議会との連携

～「真田ゆかりの地」由利本荘市を活性化させるために～

秋田県立矢島高等学校

商業科 教諭 土田伸也

臨時講師 佐藤文明

(1) はじめに

2016年1月からNHK大河ドラマ『真田丸』が放映されている。主人公である真田幸村の五女、直(なお、後の名は「お田の方」)は、幕末まで出羽の国亀田(現由利本荘市岩城町亀田)を治めていた岩城宣隆に嫁いでいる。後に宣隆との間には、長男であり名君と言われた亀田藩三代藩主重隆を残している。宣隆を献身的に支える良き妻として、また、重隆を育てる教育熱心な良き母として、正に良妻賢母といえる女性であった。

そのため、由利本荘市は「真田ゆかりの地」として、『真田丸』の放映開始後ひそかな脚光を浴びている。由利本荘市役所の方によると、『真田丸』の放映後、岩城町を始めとする由利本荘市に訪れる観光客は例年に比べて約3割の増加だという。

こうした状況を受けて由利本荘市雇用創造協議会(以下、協議会)では、新たな雇用創出や市の活性化をねらい、観光客向けに地場産品を活用した商品を開発した。一つは、亀田地区に古くから伝わる、地獄うどん(釜茹でしたうどんに梅汁をかけたもの)から発想されたホイールケーキ、そしてもう一つは、由利本荘市の特産物を詰めたセット商品である。これに伴い、協議会から本校地域創造コースビジネス系に、商品名や商品のラベルデザインの考案が依頼された。

(2) キャッチフレーズ・キャッチコピー考案

「真田ゆかりの地」を目的として由利本荘市を訪れた多くの観光客に、由利本荘市の魅力をPRするためには、ラベルデザインの他、キャッチフレーズ・キャッチコピーが不可欠であると思い、生徒とともに考案を進めた。また、これらが決まることで、ラベルデザインも考えやすくなると考えた。考える際には、企業

や自治体で採用されているキャッチフレーズ・キャッチコピーを研究することから始め、読んだ人の心に「インパクトを与える言葉や文章」「由利本荘市を想像してもらえる言葉や文章」にすることを、我々の考案するキャッチフレーズ・キャッチコピーの条件とした。

①出された全てのアイデアを活用する

セット商品のキャッチフレーズである「しっただ、いいところ」「より、HOT(ほんって おもっしえ ところだよ)」や、新商品のキャッチコピーである「歴史を越えて お田の方」は、生徒から出された様々なアイデアを組み合わせ、決定に至った。

何かしらのアイデアを募る際、生徒は毎回様々な意見を出してくれる。当然といえば当然であるが、発想力の豊かな生徒もいれば、自信の無いまま、アイデアを出すように言われたからしぶしぶ出す生徒も少なくない。授業の目的は、商品を開発したりラベルデザイン等を考案したりすることではなく、これらはいくまでも真の目的を達成する手段であると捉えている。真の目的とは、こうした手段を通じて生徒の積極性や自己表現力等を向上させることにあるため、授業に向けるモチベーションを高め、意見が採用された喜びを体得させるためにも、生徒のアイデアはどのような形であれ、全て取り入れようと努めている。しぶしぶであっても自分の考えたアイデアが、何かしらの形で採用され、実際に商品の一部となって市場に出ていく経験は生徒にとってその後の自信につながると確信している。

例えば「より、HOT(ほんって おもっしえ ところだよ)」は、多くの生徒から出た次のアイデアをまとめたものとなっている。

- ・“ゆりほんじょうし”にかけよう。「より本物の時を過ごせ荘」はどうだろうか。
- ・由利を“寄り(より)”や“由り(より)”の読み仮名で使ってみよう。
- ・本荘の始まりをHにして、Hから何か考えられないだろうか。
- ・由利本荘市は人や風土が温かい町、訪れてホッとする町、HOTとHをかけられるのではないか。
- ・最近、方言を使ったキャッチフレーズが流行っているから採用できるのではないか。
- ・芸能人が話す語録が流行っていることから、HOTと方言をかけてみよう。

この他にも、たくさんの意見を吸い上げ、個々の生徒の何かしらの発想が活用されるように努めた。意見を採用できないことと、意見を否定することは別話であり、ブレインストーミングの概念にも触れ、話し合いを肯定的に進めることの大切さを実感させ、採用されることの喜びを経験させることで、前述した自信やモチベーションの向上につながっていると感じている。また、職場でのモチベーションの話にも触れ、将来生徒が職場でリーダーとなった際、周囲の意見を尊重することの大切さも伝えられたと感じている。

(3) ラベルデザイン考案

①由利本荘市特産物セット商品

この商品は、「真田ゆかりの地」を目的として訪れた観光客に、広く由利本荘市の魅力をPRするためにセット商品化されたものである。そのため、「真田ゆかりの地」だけをPRするのではなく、手に取ったお客様に由利本荘市の魅力が伝わるようにデザイン化する必要がある。また、真田家の家紋は六文銭であり、協議会からはこの六文銭を基調とすることをお願いされていた。セット商品のラベルデザイン考案は、前述したキャッチフレーズの他に、この2点をベースにしたスタートであった。

由利本荘市は2005年に旧本荘市と7町が合併して誕生した。私たちは現由利本荘市を構成する旧本荘市と7町の特産物を六文銭の中に詰め込むことで、真田ゆかりの地である由利本荘市の魅力を多くの観光客にPRしたいと考えた。また、キャッチフレーズである「より、HOT(ほんって おもっしえ ところだよ)」から連想される温かみのあるやわらかいデ

ザインにすることや、六文銭の背景に、由利本荘市を代表する鳥海山、由利本荘市の市標をデザインすることを決め、図案化した。

生徒が図案化したものを本物に仕上げるため、本校の卒業生で現在はイラストレーターとして活躍している黒木氏に制作を依頼した。アウトソーシングの概念に触れながら、卒業生も含め、本校オリジナルデザインとして仕上げたかった経緯もある。



完成したラベルデザイン

②ぎゅっとまるごと由利本荘梅のホイール焼き ～お田にとりこ～

これは上記①とは異なり、由利本荘市が「真田ゆかりの地」であることを強くPRする商品である。そのため商品名を含むラベルデザインは、岩城亀田地区を全面にPRする必要がある。これを前提としながら、生徒から出されたアイデアの数々を随所に取り入れるようにした。生徒から出されたアイデアの一部であるが、

- ・由利本荘市から連想できる色をちりばめよう。
- ・天鷲城(亀田城)を描こう。
- ・「みちのく真田ゆかりの地観光振興協議会」がデザインしたイラストとの差別化を図ろう。
- ・梅の木を描こう。
- ・六文銭を描こう。
- ・お田の方の代名詞である薙刀を描こう。

こうした一つ一つのアイデアを採用しながら、次ようなデザインが完成した。また、ここでも黒木氏に仕上げを依頼し、本校オリジナルデザインとして仕上げることができた。



完成したラベルデザイン

(4) 由利本荘市雇用創造協議会と担当企業へのプレゼン活動

商品名を含むラベルデザインが完成し、生徒はラベルデザインのコンセプト等をまとめた「御提案書」を作成した。また、立候補により代表生徒2名を決め、協議会の金子様と(有)高山製麺代表取締役高山様に向けて、プレゼンをさせていただく機会を設けていただいた。

プレゼンといっても、ソフトウェアを活用した大々的なものにはせず、生徒自らが作成した御提案書をもとに説明を行い、質問に答えるという形にした。ソフトウェアを活用すれば、スライドに頼ったプレゼンになってしまいがちになり、授業の取組を通じて本来高めたい力(自己表現力等)が薄れてしまうと考えている。代表生徒2名のうち、1名は御提案書をもとに説明する係、もう1名は質問に対して前者が答えに詰まったような時や説明不足と判断した際に援護する係として役割分担した。

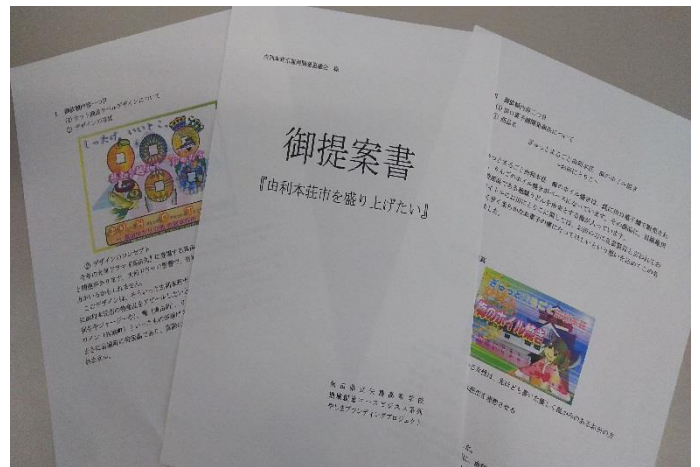
御来校頂いた2名の方からは実に鋭い質問が多く寄せられ、実際の社会で活躍される方々の視野の広い見解に触れることができた。また、高山様からは、「将来の職場で自分の仕事を上司に説明する場面や外部の企業と打ち合わせ等をする場面で生きる活動である」とお褒めのお言葉も頂戴することができた。

商品名、キャッチフレーズ・キャッチコピー、ラベルデザインは、その全てを採用していただき、2016年5月3日より道の駅岩城と天鷲村で商品の一部となり、販売されることが決定した。

(5) 最後に

今回協議会より依頼をいただき、一連の活動を行ってきたが、最終段階のプレゼンまでを終え、生徒は達成感に満ちた表情をしていた。また、実際にラベルデザインが貼られた商品を目にして、目を輝かせながら、自分たちが考案したものが市場に出ることが信じられない様子も見受けられた。

様々な地域の教材を活用することで、生徒の自信や自己表現力の向上につながる他、地域社会を構成する一員であることの意識も醸成させられたと感じている。



生徒が作成した御提案書



由利本荘市雇用創造協議会 金子様(左)と(有)高山製麺代表取締役 高山様(右)へのプレゼン活動